

No	30									
指標名	慢性心不全ACE阻害薬またはARB処方率									
定義	<p>(分子)分母のうち、ACE阻害薬またはARBの処方された患者数 (分母)慢性心不全の退院患者数 ※全国自治体病院協議会から配布される「ACE、ARB処方」リストの薬剤を対象とする。</p>									
結果	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>当院 (%)</th> <th>全国中央値 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2016年度</td> <td>32.9%</td> <td>48.7%</td> </tr> <tr> <td>2017年度</td> <td>48.3%</td> <td>50.0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>(当院)2016年度、2017年度における当院のデータ (全国)2016年度、2017年度に実施した病院の中央値 (2018/04/25 時点) ※他院との詳細な比較につきましては「全国自治体病院協議会 医療の質の評価・公表等推進事業」のページをご参照ください。</p>	年度	当院 (%)	全国中央値 (%)	2016年度	32.9%	48.7%	2017年度	48.3%	50.0%
年度	当院 (%)	全国中央値 (%)								
2016年度	32.9%	48.7%								
2017年度	48.3%	50.0%								
コメント (解説)	<p>慢性心不全入院患者さんの治療方針上、ACE阻害薬またはARBはガイドラインでも強く推奨されており、数値が高い方が良いことになります。</p> <p>当院でもガイドラインを遵守し治療をおこなっておりますが、慢性心不全と病名がついていても、軽度な患者さんから、重症な患者さんまで様々と思われれます。</p> <p>合併症を多くお持ちの患者さんや重篤な患者さんが多く通院されている当院では低血圧や腎機能障害、高齢のためにACE阻害薬またはARBを投与が困難な場合も多く、処方率が低くなっている要因と思われれます。</p> <p>様々な取り組みより2016年に比べ、2017年は増加し、全国レベルになっています。</p>									